



発行所
日刊自動車新聞社
〒105-0012
東京都港区芝大門1丁目10番11号
電話 東京(03)5777-2351代表
©日刊自動車新聞社2024

5月20日
(月曜日)

未踏をゆく

部品トップインタビュー'24

=62=

—2024年3月期決算は想定通りの数字となった

「これまで材料やエネルギーなどの価格高騰の影響などがあつたが、24年3月期は価格転嫁をより一層進め、これまで認めてもらえなかった部分も一部認められた。このような取り組みで狙いの数字に近付けた」

中国事業のてい入れが急務

—海外拠点は業績が2極化しているが

「北米は(セグメント損益が)赤字、中国もロックダウン(都市封鎖)前の数字と比べると戻ったとはいえ、売



ションでクルマの生産が落ちていて良くない。合併のところは赤字だ。拠点数が今のままでは、拠点数が今のままでは、

電動化と内燃機関の両にらみ

ロボットで生産効率化

—中国事業のテコ入れに向けた具体的な取り組みは

「中国はライニング事業や

合併でブレーキ事業をやっている。ライニングは海外向けの輸出は黒字に戻した。ただ、中国の国内向けはリセッ

「eアックス」は、従来の車の面のサスペンションを変えないで使えるところが特徴の一つだ。当社の北海道にあるテストコースで2023年夏から大型トラックに取り付けてテスト走行している。開発は順調に進んでいる」

本は電気代が高いので設置の拡大を計画している。具体的には福島工場(福島県玉川村)の駐車場に太陽光パネルを取り付けるといった具合だ。再生エネルギーを活用して脱炭素化をさらに進める。それから材料の再生利用にも取り組んでいる。鋳物に溶かす材料は製品を削った際に出る切粉などを回収して固め、それを溶かして使っている。今、スクラップなども高騰している。自社内での調達で安価に済んでいる」

T B K

おがさわら
尾方馨社長

「一方で具体的に動き始めた取り組みもある。ラインの統廃合とロボットの導入、自動化だ。一部の工場ではロボット化に成功して、十数人単

「23年度の削減率は28.8%と目標をすでに達成した。一番大きく寄与したのが太陽光発電だ。タイとインド、日本

「記者の目」14日に現行の中期経営計画を下方修正した。北米、中国のさらなる業績改善は待たない。一方、次世代商用車向けの製品開発は順調な様子。新たな収益の柱として今後の成長に期待したい。

(梅田大希) 〓おわり〓

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。